

移行期の正義

-真相解明、合理性・公平性、法治、揺るぎない民主主義

いわゆる「移行期の正義」(transitional justice)は、権威主義体制、専制体制、独裁体制、或いは国家統制主義体制等の政権体制を図る一つの指標であり、民主化を経て民主主義体制に移行後、新政府が過去の為政者が国家的暴力によって行った数々の破壊的体制や人権侵害の改善を図り、当該政権下で形成された特権階級やその基盤と結託する構造を是正・転換するために積極的な措置を採ることを指す。移行期の正義の主な目的は、民主主義に転換した社会が、過去の暗い歴史を正面から見つめ直し、深く反省することで、旧政権の様々な不正を徹底的に糾弾し、公平・正義の価値・理念を広く示し、既存の民主主義の成果を確固としたものにするものである。

1945~1988年、台湾では蒋介石、蔣経国親子を中心とする権威主義体制が築かれ、中国国民党による「中華民国」体制によって、台湾は戒厳令等の高圧的な手段で統治された。「動員戡乱」、「戒厳」の名目の下、権威主義体制は台湾社会のあらゆる側面をコントロールして踏みにじり、その勢力は、政治・経済・社会・文化・教育・芸術・メディア……等の各方面に浸透した。権威主義体制下では、社会にあらゆる不公平・不正が蔓延り、受難者はどこにも訴えるすべがなく、権力のある者に侮辱され侵略された。現在では、民主主義のために犠牲を払い貢献した先人や広い国民の共同努力によって、民主主義法治体制が実行されるようになっているが、辛く長い茨の道には、まだまだ克服し、前進しなければならない問題がある。同時に、現在でも台湾が権威主義体制に逆戻りしないという保障はないため、我々はいかなる時も警戒心を持ち、各々が意識する必要がある。

総じて、我々が公平・正義の社会で生活を営みたいのなら、その一切の運営は法治の原則に則るべきであり、台湾の民主主義を確固としたものとし、人権の保障を獲得するには、移行期の正義の実行の如何こそが最も重要なカギとなる。しかし、移行期の正義の実行に対して強い決心があっても、実際にこれまでに成し遂げた成果は僅かで、やらなければならないことが非常に多いということに気づくだろう。当然ながら、はっきり言えば移行期の正義を実行する先決条件は移行期の正義を実施しようという決心のある政治家が政権に就き、立法院で過半数以上の議席を獲得し、国民党の権威主義の本質を完全に排除することが必要であり、そうしてこそ成功の可能性が見いだせる。

同時に、本シンクタンクは移行期の正義の具体的な主張に関し、その方法とステップを下記のように提案する。(一) 移行期の正義について責任を負う専門機関を早急に設置する。(二) 民主主義統治の原則に見合うよう全面的な法改正を行う。(三) 権威主義体制時代の歴史について実証調査を行う。(四) 権威主義統治の加害者に対し、法的措置を検討する。(五) 民主主義社会に危害を与える権威主義因子を徹底的に排除する。よって、我々は民主主義制度の実施を決心する場合、民主主義制度は天からの贈り物ではなく、流血に

よる民主運動を通じてようやく獲得したものであることをしっかりと認識しなければならず、全身全力で維持し、擁護しなければ、民主主義制度の存続を確保することはできないだろう。

実際、民主主義社会に生活する国民として、公共の問題には常に関心を持ち、体制の公平さや正義を擁護するため、自主的かつ積極的に取り組むべきである。同時に台湾人は善良な本質を存分に発揮し、あらゆる権威主義体制下にある罪なき被害者に対し、九二一大地震の際に見せた苦しむ同胞に対する思いやりの心で以って、できる限りの慰めと救済に努めるべきである。即ち、自分の同胞のように、わが身に置き換えて考えることによって、国民の力を発揮し、民主主義・法治・人権・公平・正義を確保するために努力することである。最後に、台湾の民主主義を永続させるために、良い行いは奨励し、悪い行いは罰するという権利と責任が一致したメカニズムを早急に構築し、社会の公平・正義を我々の住むこの台湾において実現すべきである。